

30分の講義の後、水質、大気、騒音の測定
資料あり

環境アセスメントの目的
環境アセスメントの対象事業
ある一定規模以上のものを対象とする。

環境アセスメントの手続きの流れ

- ・対象事業の決定
 - 第1種事業 必ず実施
 - 第2種事業は判定する。
- ・アセスメント方法の決定
 - どんな項目を調査して評価するのか 案：方法書
 - やらなくてもいい項目とやる項目を判断する
- ・アセスメントの実施
- ・アセスメントの結果を公表 意見を聞く 修正
- ・事業への反映

環境保全目標を立てる

大気汚染、水質汚濁などの環境要素ごとに、環境保全目標を立てる。環境影響要因評価項目を決める。

まず、現状を調べる。

規模が小さくても県などの条例により実施する。
廃棄物処理法、大規模小売店舗立地法？設置法？

大気測定

物質、二酸化硫黄、一酸化炭素、浮遊粒子状物質、二酸化窒素、光化学オキシダント
本日は、二酸化窒素を図る
使用する機械は、24h測定し続けている。全国にたくさんの測定局がある。
結果は環境省のHPで見ることができる。ソラマメ君というページ。

装置の仕組み

一酸化窒素と二酸化窒素の合計量から二酸化窒素の合計量を測る???

本日は、空気を2ヶ所で袋に道具を使って集めてくる。

森の中と、アイドリングした車の近く。

水の分析

都道府県が定めた基準をまもる。AA～Eまでのランク（類型）
水素イオン濃度、BOD、SS、DO、大腸菌群数

有機物による水質汚濁の仕組み

川の中の汚れを微生物が食べる時酸素も使ってしまい、他の生き物がくらしにくくなる。酸素がないところで微生物が汚れを食べると水が腐ってしまう。

今回は、DOを測る。瓶に気泡が入らないようにして水をとる。気泡が入ると正確な数値が測れなくなる。DOメーターで測る。

騒音測定

環境基準 AA～C地域

騒音計の特徴 常に変動している 一日の中でどこを評価するか
昼と夜に分けて平均を取る。グラフの面積を使う。

A班(8名) 水と空気を取ってくる。水：川と池、敷地内 外30分、中30分
B班(8名) 騒音 道路を走る車の音を測る。 外60分。

地図を配布

1時間で実施し、交代で行う。

16:30からデータのまとめ

騒音

A	15:35～15:40	50.1db	施設前
B	14:22～14:27	45.7db	
A	15:50～15:55	59.4db	進入路
B	14:40～14:45	64.5db	
A	16:03～16:08	62.0db	交差点
B	14:53～14:58	60.9db	

水質

川	A	9.6mg/l
	B	10.3
池	A	8.6
	B	9.2
川	A	6.6
	B	7.9

BOD、COD、大腸菌群数、油などと併せて考えなければ汚れは判断できない

大気

窒素酸化物(二酸化窒素+一酸化窒素)

池	A	0.004(ppm)
	B	0.003
駐車場	A	0.2038
	B	0.030

環境基準は、0.04～0.06以下であるか、池周辺は十分低い。駐車場は、風や距離など条件が違うことによる差が出た。

Q器材の入手方法

環境教育に取り入れると、深みのある活動になる。説得力のある説明ができる。
簡単に測定はできる。